



## 保健医療

### 感染症との闘いに日伯の産官学が連携

ブラジル ブラジルと日本の薬剤耐性を含む真菌感染症診断に関する研究とリファレンス協力体制強化プロジェクト

#### 共同研究の基盤を確立

新型コロナウイルス感染症の患者が真菌感染症を併発し、致命的な経過をたどる例が世界各地で報告されています。真菌(カビ)はヒトの細胞と似ているため、人体に害なく真菌だけに効く治療薬をつくるのは難しく、さらに薬に対する耐性を持つ真菌の出現が世界的に問題となっていました。



研修で真菌の薬剤感受性試験の実習を行う日伯の医療関係者

肺結核患者が多いブラジルでは、真菌感染症によってその症状が悪化する患者も多く、また薬剤耐性のある真菌については実態すら把握できていない状況でした。そこで耐性真菌による感染症の実態を明らかにし、継続的な研究基盤を確立することを目的に、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)として、千葉大学とサンパウロ州立カンピーナス大学の共同研究プロジェクトが2017年9月に始まりました。

JICAと日本医療研究開発機構(AMED)が支援するこのプロジェクトでは、耐性真菌の簡便で迅速な検出法の開発、病原真菌の保存施設や症例データベースの整備、遺伝子増幅技術「LAMP法」を用いた検査技術の普及などに取り組みました。

#### コロナ禍に生まれた両国医療関係者の連帯

プロジェクト期間中にコロナ禍に見舞われ、ブ

ラジルは世界最大規模の死亡者数を記録するなど深刻な状況に陥りました。世界中が混乱するなか、日伯の両大学が中心となりいち早く新型コロナウイルスの合同症例カンファレンスを立ち上げ、2020年6月から2年間で24回ものオンライン会合を開催。最新の症例や治療法などの知見が共有されただけでなく、国境を超えた意見交換の場は、未知のウイルスとの闘いを強いられていた両国の医療現場スタッフの精神的な支えになりました。

また産官学が連携し、日本の検査薬メーカーが開発した新型コロナウイルス検出試薬の性能を評価する臨床試験をカンピーナス大学で実施。その結果、試薬の有効性が確認され、今後は臨床使用に向けた協力を続けていくことになっています。

#### VOICE

##### プロジェクトの成果が根付いています

サンパウロ州立カンピーナス大学  
副学長  
マリア・ルイザ・モレッティさん



多様な研修、真菌耐性に関する研究、真菌感染症データベース、新型コロナウイルス関連の緊急支援など、プロジェクトは多くの成果を残しました。また、そこで築かれたカンピーナスの主要病院間の連携体制はしっかりと根付いており、今も週1回会議を開き症例情報などを共有しています。

##### 構築した研究基盤を活用していきます

JICA専門家  
千葉大学真菌医学研究センター 准教授  
渡邊 哲さん



プロジェクトの大きな成果の一つは、両国の大学間で強固な共同研究チームを作り上げたことです。日本では稀な疾病の研究は、こちら側も大きく裨益するものでした。今後も両国のみならず、保健医療分野の地球規模課題の解決に向けて、この研究基盤を最大限活用していきたいと考えています。